

ICDMの成立と業界の国際的課題

1. 国際ドラム缶製造業者連合会(ICDM)の発足

国際的なドラム缶工業会の組織として、ICDM (International Confederation of Drum Manufactures)が発足し、本年2月、ベルギーのブリュッセルで第1回の総会及び役員会が開催され、国際的な視野での活動が開始されました。

ICDMは、ヨーロッパ、日本、アメリカの工業会で構成されています。

初代会長には、ヨーロッパ代表のT.Schreiber氏が就任し、JSDA 理事長の安藤成海氏が副会長に選出されました。

ICDMは毎年1回総会及び役員会を開催し、また3年毎に国際会議を開催して、ドラム缶業界の抱えている世界的な問題について討議し、協同で解決することを目的としています。

2. 現状での国際的問題

ICDMでとりあげられている諸問題は表に示す通りですが、主なものを紹介しましょう。

(1) 国際規格問題

現在、ドラム缶の規格は、ヨーロッパ、アメリカ、日本で大きく異なっています。特に寸法上(径、高さ、口金の位置など)の違いは国際的共通容器として考えた場合、大きな問題を抱えています。例えば海外の化学品をドラム缶で輸入した場合、その空ドラムは日本の更生缶メーカーで洗滌・再生することが出来ず、また自動充填装置で作業されているメーカーは製品を充填することが出来ないため、スクラップ化せざるを得ません。反対にJIS規格のドラム缶に内容物を充填して輸出した場合、欧米では同様な現象が起り、国際競争力は低下してしまいます。

しかし、十分な議論と準備を行わないとユーザー、更生缶業界、輸送業者など、国内流通に混乱をまねく恐れがあり、慎重に対処せざるを得ません。国際規格標準化の問題はICDMのワーキンググループで議論することになっており、既に活発な活動をおこなっています。

(2) 回収ドラムの空ドラム化

エンドユーザーから回収されるドラム缶は「空」の状態にして欲しいのですが、各国とも現実にはほど遠い状況で困

っています。空ドラム化は環境問題や、更生作業時の事故発生に直接関係があるだけに、各国とも問題意識が高く、充填物が排出し易くデザインされたODD (Optimum Drainable Drum)や排出用の機器なども開発されていますが十分ではありません。

アメリカではドラム缶内の残渣1インチ以下、ヨーロッパでは1%以下でないとは回収しないとの規制もあるようですので、日本でもエンドユーザーの御理解と御協力をお願いしたいと思います。

(3) 鋼製ドラムのリサイクル

ドラム缶のリサイクルと、スクラップの回収・再利用をいかに円滑化するかは業界の重要課題となっています。ヨーロッパではドラム缶を含む包装と、包装廃棄物に関する新規制がドイツでは既に施行され、他の国々でもその機運にあります。日本でも更生缶業界、スクラップ業者と協同して、鉄鋼業界に対し援助を仰ぎ、受入可能なスクラップの規格を決定してもらうよう働きかけたいと考えています。

* * *

ICDMの会議は、1994年、1995年の秋に日本で総会と役員会が、また1995年11月には神戸で国際会議が開催される予定です。JSDAは、国際的地位の向上を目指して努力していきたいと思っています。

鋼製ドラムに関する国際的課題

| 課題 | 問題点と対応 |
|-------------|--|
| 国際規格の標準化 | 1. 容量、サイズ、口金位置が地域で異なる 2. 他国サイズの缶の製造・更生・充填設備がない 3. 国際化のために標準化は必要 |
| 環境保護 | 1. 揮発性有機化合物(VOC)放出規制により塗料使用問題がクローズアップ 2. 産業廃棄物の減少対策 |
| 鋼製ドラムのリサイクル | 1. ドラム缶スクラップの回収と再利用の円滑化の確立が必要 |
| 回収ドラムの空ドラム化 | 1. 残渣が多いと環境問題が起る 2. 排出性の良いドラム缶の開発 3. エンドユーザーへの意識の浸透 4. 空ドラム化への法規制 |
| イメージアップ | 1. 鋼製ドラム缶が環境汚染のシンボルに使われている 2. 上記のメティアやグループに対し組織的に書類を送る 3. 鋼製ドラムのリサイクル性に注目したキャンペーンを行う |



平成5年度200ℓドラム需要見通しの修正

石油業界及び化学工業界の低迷ぶりが、200ℓドラムの出荷量に大きく影を落している。当工業会200ℓ缶部会では、年初に作成した本年度の需要見通しと実勢との差異が大きくなり外れそうなので、会員各社の指針とすべく、8月に修正見通しを作成した。(下表)

当初見通しでは対前年比99.3%で年後半の景気回復を期待して上期：下期は49%：51%とみていたが、今回見通しでは、7月迄の実績から推定して上期の数量がかなり落ち込むこと、また、下期の景気回復も残念ながら期待できないという見通しとなり、結果として対前年比93.9%、上期：下期は50%：50%と大きく下方修正せざるを得なかった。

| 平成4年度 実績 | 当初見通し | | | 修正見通し | | |
|--------------|---------------|---------------|------------------------|---------------|---------------|------------------------|
| | 上期 | 下期 | 計 | 上期 | 下期 | 計 |
| 千本 12,156 | 5,926 (49) | 6,144 (51) | 12,070 前年比 99.3% | 5,710 (50) | 5,710 (50) | 11,420 前年比 93.9% |

ドラム缶工業会でロゴマークを検討中

ドラム缶工業会では、このたび日本ドラム缶更生工業連合会と共同して、ドラム缶のイメージアップを目的としたロゴマークを作成することとなりました。

ドラム缶は、何でも入れることができ、また洗滌して繰り返し使用が出来るという有用で経済的な特質を持っている上、最後は鉄スクラップとしてリサイクルされる、地球にやさしい優れた容器であります。しかし、一般の人のドラム缶に対するイメージは、「不法投棄」「汚染物質」などの言葉と結びついて、必ずしもいいものとはいえません。こうしたイメージの悪さは海外でもドラム缶業界の悩みの種となっているため、このたび発足したばかりのICDM(ドラム缶の国際組織)では“ドラム缶のイメージアップ”を活動方針の一つとしてとりあげることとしております。

ドラム缶工業会でも、こうした動きに呼応したイメージアップ運動の一環として、鋼製ドラム缶の優位性をあらゆる機会に主張しPRするためのロゴマークを制定することとしたものです。

現在、ドラム缶工業会およびドラム缶更生工業連合会の会員会社からその原案を大々的に募集しており、年内にはプロの手を加えた上で最終案を決定することとしております。来年春にはドラム缶に携わるみんなのシンボルとしてデビューを飾る予定ですので、みなさまのご愛顧を今からお願い申し上げる次第です。



DATA FILE

円高と不況が直撃 低迷続く

平成5年・第1四半期（4～6月期）のドラム缶生産は、前年同期比8.2%減の8万2千トン、出荷も同比8.2%減の8万1千824トンとなり、生産・出荷とも前年同期を大幅に下回った。

このうち、主力の200ℓ缶の出荷本数は、前年同期比7.3%減の2,855千本で、うち、間接輸出が335千本で、同比20.7%減となった。主需要部門の化学業界は、石油化学製品の需要が伸び悩む一方で、円高による輸出減が避けられないことから低迷が続き、また、石油向けも自動車の減産によるモーターオイルの販売減に加えて、産業活動の停滞による工業用潤滑油の需要減少のために、ドラムの需要が激減したものと想定される。

また、ペール缶は、同比6.0%減の642万9千本であったが、缶種別の構成比は、ラグペール70.0%、バンドペール17.9%、タイトペールが12.1%となっている。

この出荷を、缶種別・用途別にみると下表に示す通りである。

平成5年（4～6月度）ドラム缶・缶種別・用途別出荷本数

| 用途 | | 単位：千本 | | | | | | 前年同期比 |
|--------|------|-------|-------|-----|-----|-----|-------|-------|
| 缶種 | | 石油 | 化学 | 塗料 | 食料品 | その他 | 合計 | |
| 200ℓ | 缶 | 481 | 2,102 | 173 | 52 | 47 | 2,855 | 92.7 |
| ペール | | 3,219 | 2,694 | 342 | | 174 | 6,429 | 94.0 |
| 100ℓ | 缶 | 4 | 47 | 1 | | 微 | 52 | 99.2 |
| 50ℓ | 缶 | 微 | 53 | | | | 53 | 91.8 |
| 20ℓ | 缶 | 5 | 39 | | | | 44 | — |
| アス缶型 | | 2 | 2 | | | | 4 | 90.1 |
| その他容量缶 | | 2 | 236 | 微 | | 2 | 240 | 105.6 |
| 亜鉄板鉛缶 | 200ℓ | | 28 | 2 | 微 | 1 | 31 | 41.4 |
| | その他 | | 76 | | 微 | | 76 | 89.2 |
| | 小計 | | 104 | 2 | 微 | 1 | 107 | 66.9 |
| スレス缶 | 200ℓ | | 3 | 2 | | | 5 | 70.1 |
| | その他 | | 4 | | | 微 | 4 | 157.1 |
| | 小計 | | 7 | 2 | | 微 | 9 | 91.2 |
| 合計 | | 3,713 | 5,284 | 520 | 52 | 224 | 9,793 | 92.8 |
| 構成比 | | 20.1 | 70.6 | 5.9 | 1.5 | 1.9 | 100 | — |

(注) 構成比はドラム缶の出荷トン数の構成比。

▼不景気なので、景気のいい話を一つ。
▼「水に流す」とか「水くさい」とか、とかく豊富にあつて価値の低いものの代名詞のように扱われてきた「水」だったのに、今ミネラルウォーターがバカ売れとか。しかもバ

ーで使う業務用はむしろ減っているのに、家庭用が何とこの5年間で約13倍もの伸びだそうである。
▼たかが水とバカにしてはいけない。すでにこのミネラルウォーターの市場規模は400億円といわれ、この勢いでいけば200ℓドラム缶の市場規模(約500億円)を追い越すのはもはや時間の問題なのである。▼この快進撃の裏にはグルメ志向があると

評論家先生は指摘する。十分使える立派な水道のある日本で、何も高い金出して水なんか買わないでもとも思うが、時代のほうがどんどん進んで、そのうち「水っぽい」などという言葉は大変価値のあるものをさすようになるのだろうか。



株式会社ユニコン

当社は、昭和42年大阪の堺・泉北臨海工業地帯で産声をあげて以来、ペール缶専門メーカーとして、皆様のご愛顧を得てまいりました。

当社を紹介する場合、社名「ユニコン」の由来について説明する必要があります。

創立時の社名は株ユニバーサルコンテナサービスでした。

- ◎ユニバーサル (すべての用途に適した)
- ◎コンテナ (容器をとおして)
- ◎サービス (社会に貢献する)

という意味で、ここに創業の理念を知ることができます。しかし、すこし長いので、昭和50年に現在の社名に変更いたしました。

お蔭さまで平成4年には創立25周年をむかえました。これを機に社員一同、より高品質の製品を造ることで、皆さまにお応えしようと決意を新たにしています。

株式会社
東京ドラム罐製作所

弊社 初代社長 芝山信郎は、昭和の前から日本橋で工具店を開業し、その後昭和8年に葛飾区細田で東京ドラム罐製作所を始めました。有名なバレーボールの松平監督の父、松平康一氏の経営する株式会社日本ドラム罐製作所にとっては、いささか驚異だったというお話を賜って、不思議なめぐり合わせに三代目社長の私は恥ずかしさと世の移り変わりに感銘を覚えます。

20ℓから300ℓ缶、ステンレス缶、特殊缶を鹿沼工場に於て生産していますが、社員に対して「誠実勤勉をモットーに謙虚にして切磋琢磨し 常に一步前進せよ」と呼びかけ、日夜“早くて、良くて、安い”を念頭に努力を重ねているところであります。関係各位の御指導、御鞭撻をお願いするものであります。

ドラム缶工業会

東京都中央区日本橋茅場町3-2-10

(鉄鋼会館3階)

TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969

ADK 秋田ドラム工業株式会社
秋田市土崎港北6-2-22 ☎ 0188-45-1105

O.S.K. 株式会社大阪製罐所
大阪市此花区島屋2-11-63 ☎ 06-466-4601

川鉄コンテナ株式会社
大阪市北区堂島浜2-1-29 ☎ 06-344-9711

協和容器株式会社
新潟市下木戸2-4-20 ☎ 025-274-0371

鋼管ドラム株式会社
東京都中央区銀座8-11-11 ☎ 03-3574-0711

斎藤ドラム缶工業株式会社
横浜市鶴見区生麦3-15-14 ☎ 045-521-3881

山陽ドラム缶工業株式会社
岡山県倉敷市中島1230 ☎ 0864-65-3680

新邦工業株式会社
東京都千代田区神田佐久間町3-27-3 ☎ 03-3861-5285

大同鉄器株式会社
尼崎市杭瀬南新町3-2-21 ☎ 06-488-2468

株式会社東京ドラム罐製作所
東京都葛飾区東四ツ木2-23-16 ☎ 03-3695-8511

東邦シートフレーム株式会社
東京都中央区日本橋3-12-2 ☎ 03-3274-6212

株式会社長尾製缶所
和歌山県有田郡吉備町野田144 ☎ 0737-52-256

日鐵ドラム株式会社
東京都中央区銀座1-7-10 ☎ 03-3562-0251

株式会社前田製作所
東京都港区新橋1-5-5 ☎ 03-3573-7101

森島金属工業株式会社
千葉県佐倉市大作2-5-5 ☎ 043-498-3551

株式会社山本工作所
北九州市八幡東区大字枝光1950-10 ☎ 093-681-2431

株式会社ユニコン
大阪府高石市高砂2-7 ☎ 0722-68-0515

ひびき No.6 (平成5年10月20日発行)

発行人 ドラム缶工業会
専務理事 柴野 正裕

本誌は再生紙を使用しています。